



本からたどる

草野心平



- ・上段左側から、「草野心平」草野心平 日本図書センター、「銅鑼（復刻版）」日本近代文学館、「宮沢賢治」いわき市立草野心平記念文学館、「げんげと蛙」草野心平 銀の鈴社。
- ・中段左側から、「わが光太郎」草野心平 二玄社、「火の車板前帖」橋本千代吉 文化出版局（現在、絶版）、「小動物抄」草野心平 新潮社、「草野心平詩集」草野心平 岩波書店。
- ・下段左側から、「酒場学校の日々」金井真紀 皓星社、「涙をたらした神」吉野せい 中央公論新社、「草野心平」いわき市立草野心平記念文学館、「お探し物は図書室まで」青山美智子 ポプラ社。

開催にあたって

今年は、いわきが生んだ詩人草野心平の生誕 120 周年にあたります。市民の皆さまにより親しんでいただくため、草野心平記念文学館と共催で企画展示を開催いたします。

当館前身の市立中央図書館において、草野心平資料展を開催したのが、今から 42 年前の昭和 56 年です。

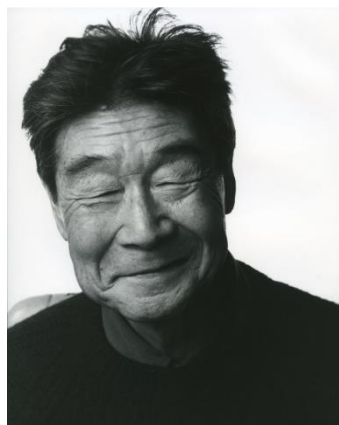
当時は御本人に来館していただきましたが、昭和 63 年に 85 歳で亡くなられ、35 年が経ちました。

長年、当館は地域資料として同氏の関連資料を収集してきました。この度開館 15 周年を迎えるにあたり、再び展示の機会を得たことを大変光栄に考えております。

今回は、所蔵本から草野心平の生涯と作品を紹介します。東日本大震災やコロナ禍を経験した私たちにとって、その型破りで情愛に満ちた生き方と作品が、辛苦を乗り越える力になる事を願っています。

令和 5 年 4 月

いわき総合図書館



草野心平 1977 年 （小林正昭撮影）



『草野心平』 —わが青春の記— 草野心平著 日本図書センター 2004

1963年草野心平60歳の時、「小説新潮」にて1年間、初めての自伝「わが青春の雑雑」を連載。それを改題した『わが青春の記』(オリオン社1965)が、この本の底本。

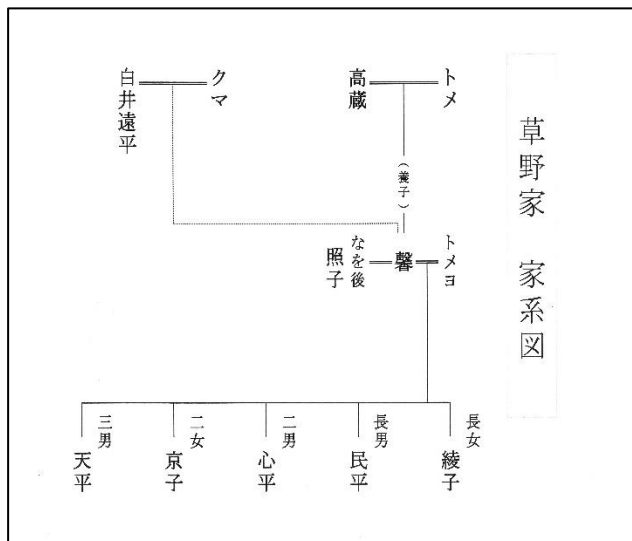
「硬派少年期」には、小川での少年時代や磐城中学など故郷で過ごした日々が描かれている。

いわき市立草野心平記念文学館関連資料

『草野心平の詩 青春無頼編』2016

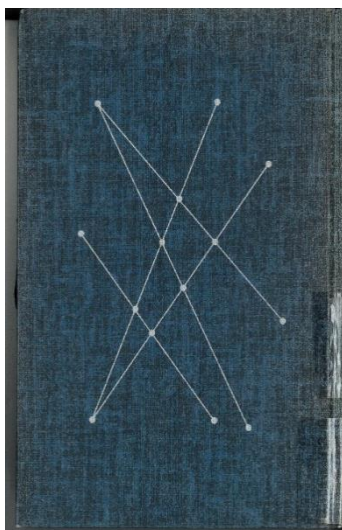
詩 「囁む」『乾坤』1979

「少年思慕調」『未来』1983



草野心平生家内部 (2023年3月撮影)

『草野心平詩全景』1973「草野家系譜」参照



『私の中の流星群』 —死者への言葉— 草野心平著 新潮社 1975

文学や芸術に関わりのある、既に他界している人達への追想集。この本には、兄民平と弟天平など43人、続編は生者も含めて父馨や義母直、同郷の橋本千之助、楡田民蔵と中国の友人など59人の印象記を掲載している。

心平は父馨、母トメヨの二男。5人兄弟の次男として生まれたが、家族は東京で暮らし、心平だけが祖父母のもとで育てられた。13歳の時、病気で兄と母、姉が死亡している。

詩 「民平遠景」『乾坤』1979

「生きたい・生きる」『幻象』1982



『凹凸の道』 ー対話による自伝ー 草野心平著
文化出版局 1978（現在絶版）

草野心平 70 代の時の親しい友人との対話による自伝。

18-22 歳の心平は、排日運動が激しかった時に中国の嶺南大学で、唯一人の日本人学生として青春を過ごした。この広州のアメリカ系ミッションスクールで詩に目覚め、苦学し、日本語教室の講師をし、友情を育んだ。

同郷の橋本千代吉と戦後の故郷生活や幼年期、居酒屋「火の車」時代を語っている。

詩 「上小川村」『牡丹園』 1948

『乾杯群』 5 号 乾杯群社 1926

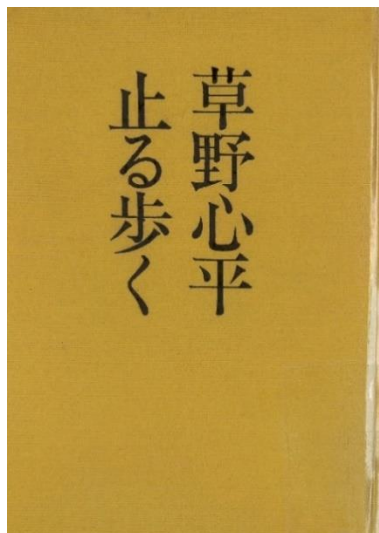
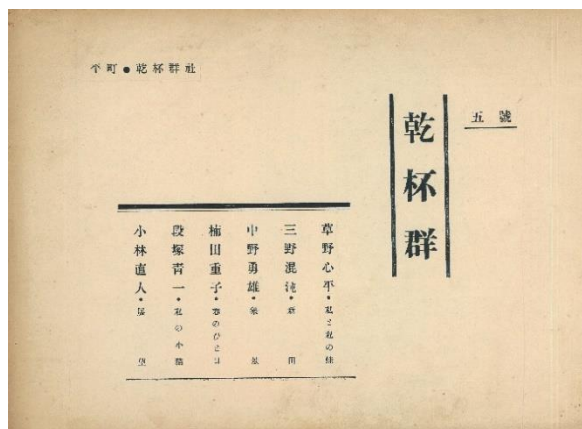
いわきでは、山村暮鳥の影響を受けた青年が大正末期から昭和にかけて、多くの同人詩誌を創刊した。この詩誌もその中の1冊である。

編集者の中野勇雄は平の中野洋品店の長男。

草野心平は勇雄と磐城中学時代に交流があり、5号に詩を掲載。心平は猪狩満直の編集する「播種者」第2巻第4号(1923)にも詩を寄せている。

[いわき市立草野心平記念文学館関連資料](#)

『詩風土の開花』 2002



『止る歩く』 草野心平著 東京美術 1970（現在絶版）

草野心平の国内紀行随筆。歳時記も加えられている。

故郷については、「望郷」、「阿武隈の山々」、「七月の故郷」、「背戸峨廊の秋」、「福島ところどころ」、「ふるさと・浜通り」、「五月藤の花」など7編を収録。

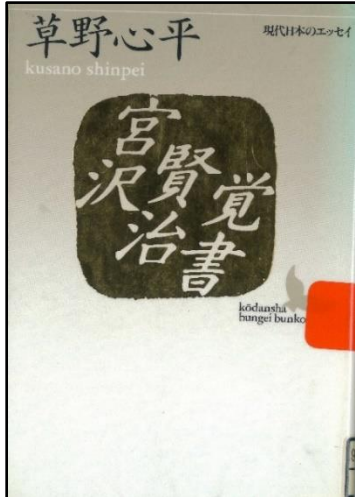
[いわき市立草野心平記念文学館関連資料](#)

『草野心平とふるさと展』 2003

詩 「故郷の入口」『大白道』 1944

「鬼女」『天』 1951

「磐城七浜」『マンモスの牙』 1966



『宮沢賢治覚書』 草野心平著 講談社 1991

草野心平の宮沢賢治に関するの評論と随想集。底本は『わが賢治』（二玄社 1970）。

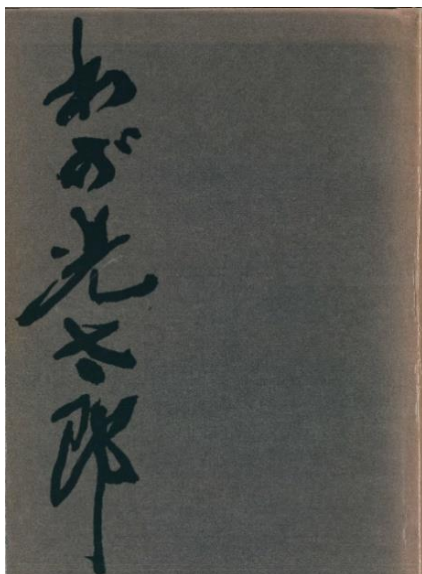
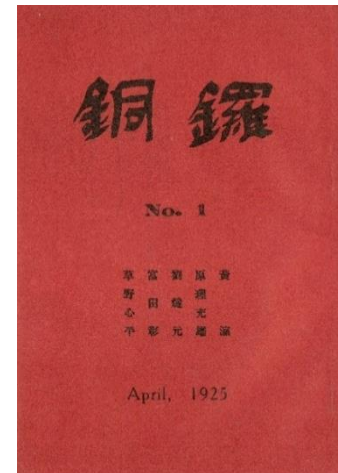
1924 年 21 歳の心平は磐城中学校の後輩から中国に送られた『春と修羅』により、賢治の作品と出会う。1925 年、心平は賢治を「銅鑼」の同人に誘い、1933 年に賢治が 37 歳で亡くなるまで手紙のやり取りをしたが、実際に会うことはなかった。心平は賢治を「天才」と紹介し、没後は「宮沢賢治全集」の出版に尽力した。

[いわき市立草野心平記念文学館関連資料](#)

『宮沢賢治』 1999 『宮沢賢治展』 2018

『銅鑼』 復刻版 日本近代文学館 1978

同人詩誌「銅鑼」第1号の奥付は「編輯兼発行者 草野心平 中華民国広州嶺南大学銅鑼社内 1925 年 4 月発行 非売」。22 歳の心平が鉄筆でガリを切り、謄写印刷して刊行。同人は心平と学校の友人劉燧元、手紙で交流中の黄瀛と原理充雄、富田彰の 5 人。7 月、心平は排外人運動のため、卒業目前に未製本の「銅鑼」第 3 号を抱えて帰国し、黄瀛の下宿に居候。「銅鑼」は発行所の住所を転々と変え、1928 年 16 号で終刊。



『わが光太郎』 草野心平著 二玄社 1969

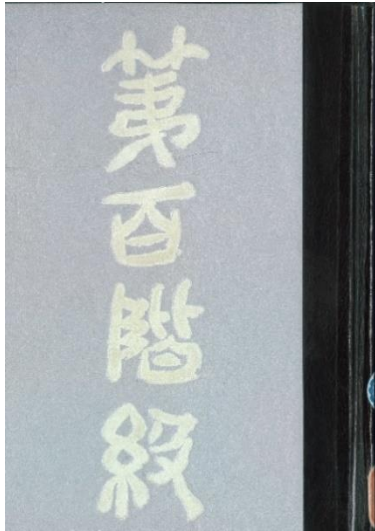
草野心平は、高村光太郎に関する詩、手紙、評論、随筆、日記等、30 年以上にわたる交友から生まれた文章を本にし、1970 年に第 21 回「読売文学賞」（評論伝記部門）受賞。

1925 年 22 歳の心平は黄瀛の紹介で高村光太郎のアトリエを訪ねた。後に、「私がじかに接し得た巨人」と評している。20 歳年上の光太郎も心平の才能を評価し、詩誌への援助や詩の寄稿など様々な支援をしている。

光太郎没後、心平は光太郎と智恵子の顕彰に尽くした。

[いわき市立草野心平記念文学館関連資料](#)

『高村光太郎・智恵子展』 2003



『第百階級』 草野心平著 成瀬書房 1981

銅鑼社(1928)の復刻版。草野心平初めての活字印刷の詩集。題名は蛙を百番目の階級の生き物と考えたことによる。名刺印刷機で作られ、高村光太郎が序を寄せた。

当時 25 歳の心平は江島やまと結婚後、前橋市に転居。詩作に励むが、生活は苦しく、1929 年上毛新聞社に入社するも、翌年退社。2 年半の前橋生活を終えて郷里に戻り、詩作について悩む。

[いわき市立草野心平記念文学館関連資料](#)

『詩の上州展』 2005

『小動物抄』 草野心平著 新潮社 1978

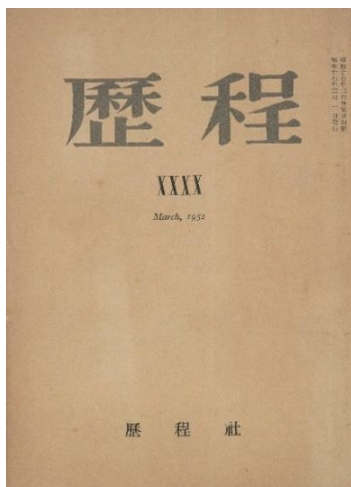
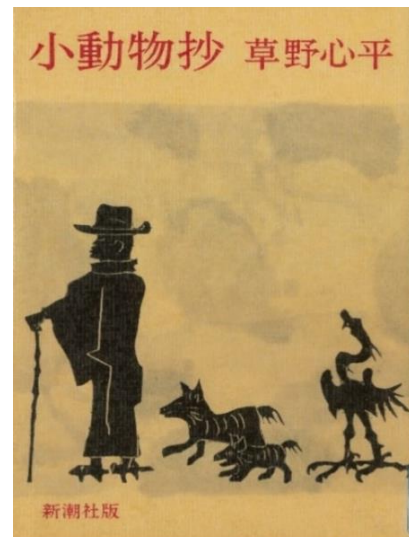
草野心平が生活を共にした動物(犬、鳥、栗鼠、猫、鯉)を題材にした小説集。続編と旅する植物、石を含む。

前橋時代にも犬と共生。同じ題材で心平手書きの画が添えられた随筆集『アベベの猫柳』(青娥書房 1970)がある。

1931 年 28 歳の心平は上京し、同郷の櫛田民蔵に借金して屋台の焼鳥屋「いわき」を開店するが、生活できず、1 年で閉店。実業之世界社に職を得る。

[いわき市立草野心平記念文学館関連資料](#)

『草野心平の愛した動物たち』 2012



『歷程』 1952 3月号 通巻 40号 歷程社

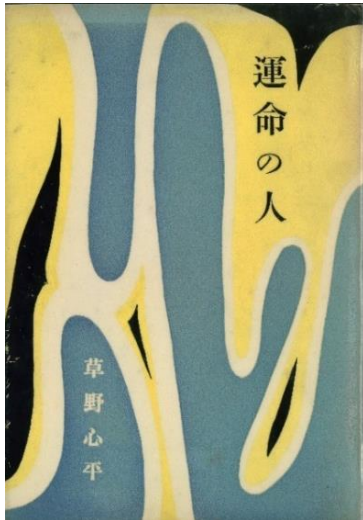
同人詩誌「歷程」創刊号は 1935 年 5 月に歷程社より刊行。誌名はバンヤンの「天路歷程」からとられた。同人は逸見猶吉、草野心平(32 歳)を中心に、岡崎清一郎、尾形亀之助、土方定一、高橋新吉、菱山修三、中原中也の 8 人であった。

1944 年に一度中断したが、戦後の 1947 年 44 歳の心平が中心となり、復刊。詩誌の発行のみならず、歷程セミナーや歷程賞など多彩な活動をしている。

「歷程」No.369 1990 年 2 月号は、「追悼草野心平」。

[いわき市立草野心平記念文学館関連資料](#)

『「歷程」創刊同人展』 2003 『歷程の軌跡展』 2008



『運命の人』 草野心平著 新潮社 1955

1954 年心平 51 歳の時に「読売新聞」に連載された小説。

中国の汪精衛を主人公に 1939 年から 1940 年にかけての日中和平工作をめぐる歴史を描いている。

1934 年 31 歳の心平は、「財政経済二十五年史」完結後、「帝都日日新聞」に移って記者となるが、1939 年退社。

1940 年、中華民国中央政府(汪精衛政権)の宣伝部部長の林柏生(嶺南大学同窓生)の招きで宣伝部顧問として中国に渡る。6 年近く南京で生活するが、1945 年第二次世界大戦終結後、国民政府軍に家財を没収される。

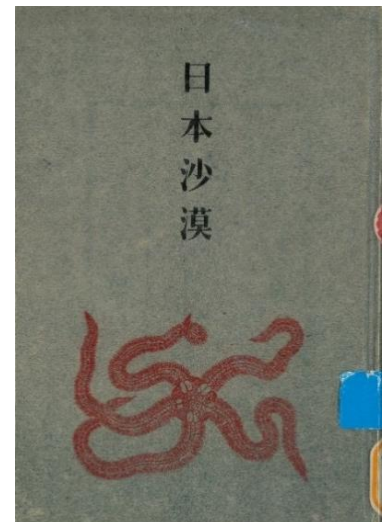
『日本沙漠』 草野心平著 青磁社 1948

1946 年 43 歳の心平は郷里に帰り、生家で親族 19 人と同居生活をする。1947 年、「文学界」再刊に参加した仲間から協力を受け、生活のために小川郷駅前に貸本屋「天山」を開店するが、1948 年に閉店し、ひとり上京する。

45 歳の心平は、この詩集の他に『牡丹園』、『定本蛙』と精力的に詩集を刊行した。

いわき市立草野心平記念文学館関連資料

『「日本沙漠」展』 2004



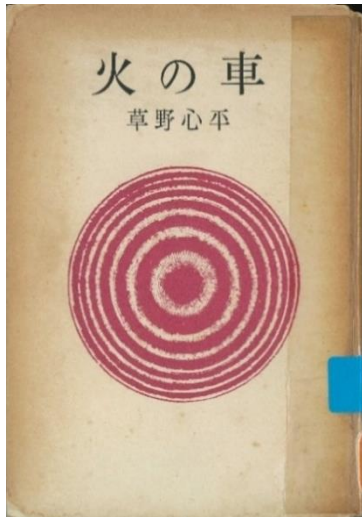
『定本蛙』 草野心平著 大地書房 1948

心平の 3 番目の蛙の詩集。20-40 代に書いた蛙の詩を収録。題字は高村光太郎、装丁は高橋錦吉、写真は土門拳、作曲は深井史郎、印鑑は串田孫一と幅広い交友関係がうかがえる。

1950 年 47 歳の心平は一連の蛙の詩によって第 1 回読売文学賞(詩歌部門)を受賞。賞金 10 万円は借金のため前借し、正賞銀時計は質草になって紛失した。

いわき市立草野心平記念文学館関連資料

『草野心平のカエル展』 2008 『草野心平 蛙の詩』 2019



『火の車』 草野心平著 創元社 1951

1952 年 49 歳の心平は、念願の飲み屋を開業する。

心平は「もともと『火の車』といふ飲み屋をはじめようと思ひたつたのも生活が火の車だからだつた。少し上品なこじつけをつけ足せば、散文は書かずに飲み屋のあがりで生活し、あとはぼつぽつ詩だけを書きたい。そしてもしもたんまりたまつたならば、やがて折も来ようから、それをにぎつて海を渡つてゆきたい」と考えていた。しかし、実際は店主自らが飲み、喧嘩をし、筑摩書房の古田社長等、様々な人々と様々な事件を起こし、生活の糧にはならなかった。

いわき市立草野心平記念文学館関連資料

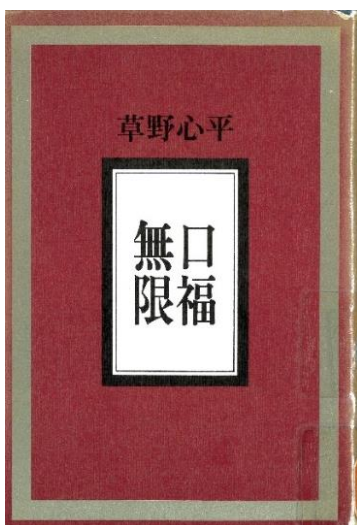
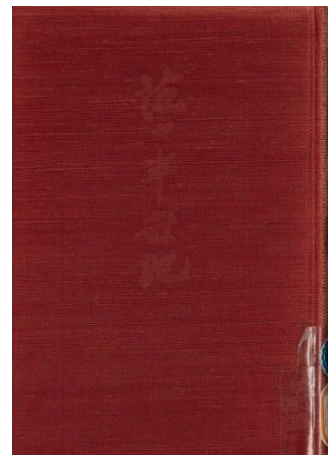
『草野心平の詩 料理編』 2017

＊いわきデジタルミュージアムの VR ツアー「火の車」

『茫々半世紀』 草野心平著 新潮社 1983

1980 年から 1982 年に「新潮」に掲載。1956 年の中国訪問と中国との関わりについて書かれた自伝的回想。附録「変な旅」は 1968 年のソ連訪問・ヨーロッパの旅行。

1956 年 53 歳の心平は中国(毛沢東主席)の招きにより、訪中文化使節団の副団長として中国を訪ね、念願の天山山脈を見、31 年ぶりに嶺南大学を再訪した。帰国後、「火の車」は区画整理のため、閉店する。

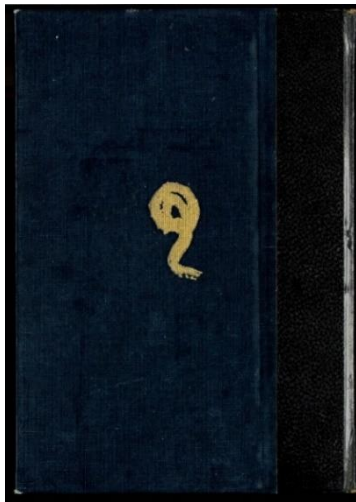


『口福無限』 草野心平著 講談社 1981

1968-1980 年にかけての酒と食に関する随筆集。店を開き、腕を振った心平の食材への独特な感性が光っている。

1960 年 57 歳の心平はバア「学校」の共同出資者となる。心平の生活はしだいに安定し、60 歳にして初めての新築の自宅を持つ。入退院を繰り返しながら、ラジオや TV にも出演し、書画展を開くなど活躍の場を広げる。

1969 年 66 歳の心平は胃袋の 2/3 を切除、右目失明、難聴となっていたが、ハワイ大学の客員教授を勤め、ホノルルに滞在。1972 年には棟方志功の誘いで共にインド旅行をし、1976 年共著で詩画集『天竺』にした。



『草野心平詩全景』 草野心平著 筑摩書房 1973

筑摩書房は8年をかけて、草野心平の全詩集を刊行。
1924年から1971年までの詩を収録。

書誌・年譜は同郷の長谷川渉が作成。書誌は小説、童話、評論、随筆、翻訳、編纂、翻訳詩集と分かれ、心平の仕事の幅広さが見てとれる。年譜は冒頭に草野家系譜があり、1971年11月までの事項が年単位で詩、散文・他、年譜、関係文献、書画作品、社会事業と分け、詳細である。

1973年5月、この出版と心平の古稀を祝う会が赤坂プリンスホテルで盛大に催された。

『草野心平全集』 全12巻

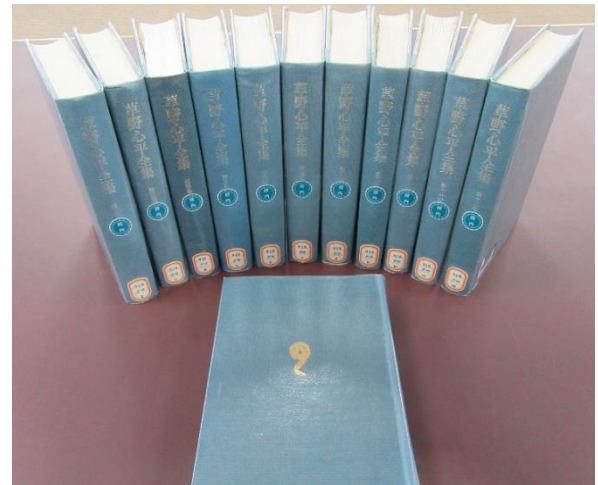
筑摩書房 1978-1984

この全集には1979年心平76歳までの作品を収録。全集の内容は、1-4巻が詩、5-6巻が評論、7巻が小説、8巻が紀行随筆集、9-11巻が随筆集、12巻が最新の随筆、童話、翻訳書と年譜。

1974年71歳の時に妻やまが66歳で死去。

翌年、72歳の心平は日本芸術院会員になる。

心平の創作意欲は衰えを知らず、『草野心平詩全景』刊行の翌年から毎年ほぼ1冊ずつ発表した12冊の詩集は「年次詩集」と称されている。



『草野心平日記』 全7巻 思潮社 2004-2005

心平は1940年37歳から1985年82歳まで約45年間にわたって日記を書き続けた。

「日記」本文は、著者自筆の日記を底本として翻刻。

第6巻の1981年と第7巻1983年の日記に「いわき市中央図書館」の記載が見られる。

1987年心平84歳の時に文化勲章を授与される。

翌年、急性心不全のため死去。享年85歳。

いわき市立草野心平記念文学館関連資料

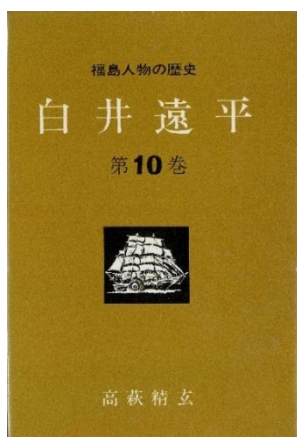
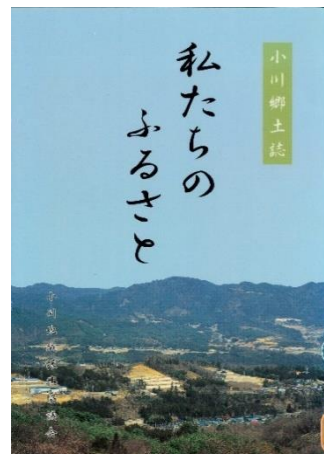
『日記と手紙にみる草野心平』 2007



関連資料

『私たちのふるさと』-小川郷土史- 小川地域振興協議会広報専門委員会 編 小川地域振興協議会 1998

草野心平が生まれた上小川村（現・いわき市小川町）周辺の歴史・史跡、民俗・人物・昔話を紹介。心平は故郷を「後ろに…阿武隈を背負い、前面に夏井の清流を越えて、…水石山や阿伽井嶽を…望むところ」と評している。

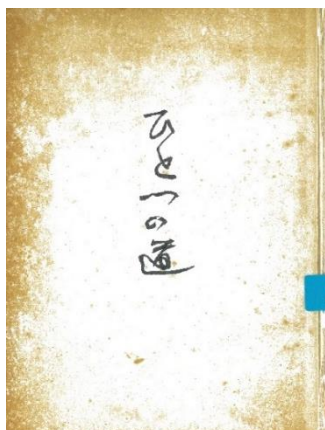
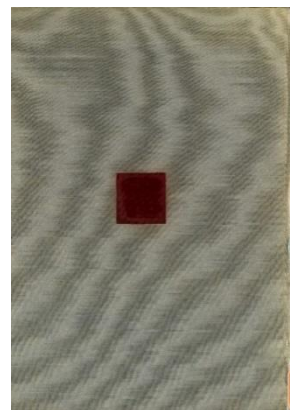


『福島人物の歴史 第10巻』^{しら いえんぺい}白井遠平
高萩精玄 著 歴史春秋社 1983

白井遠平は上小川村出身の政治家・実業家。いわき地方の近代化のために石炭開発や常磐線・磐越東線の開通、小名浜港開発などの産業経済の基礎作りに尽力した。草野心平の実の祖父である。

『草野民平詩集』草野民平 著 草野心平 編
青娥書房 1971

草野心平の初めての詩集（ガリ版）『廃園の喇叭』は、兄民平との合本詩集。心平が詩を書き始めたのは、10代で亡くなった兄の影響が大きい。



『ひとつの道』草野天平 著 十字屋書店
1947

兄達は10代から詩を書き始めたが、弟天平は31歳くらいから詩を書いている。
1952年42歳で死亡。

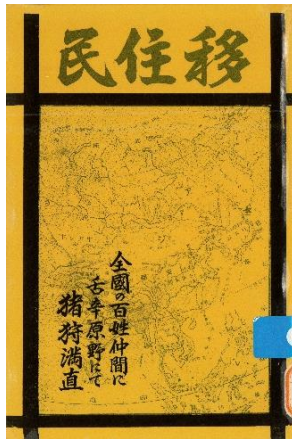
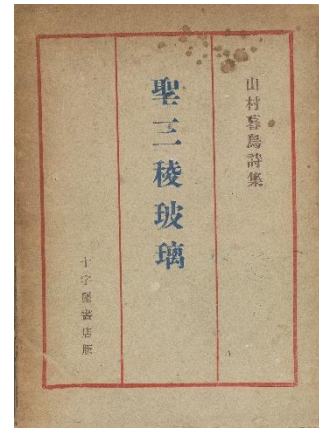
いわき市立草野心平記念文学館関連資料
『草野天平』1998 『草野天平展』2010

『聖三稜玻璃』 山村暮鳥 著 草野心平 編
十字屋書店 1947

1912 年、山村暮鳥はキリスト教の伝道師として平に赴任し、6 年余り平近郊の文学青年らと交友した。

21 歳の心平は手紙のお礼に晩年の暮鳥を訪ねている。

いわき市立草野心平記念文学館関連資料
『山村暮鳥展』 2005



『移住民』 猪狩満直著 鎌出版 2000

銅鑼社（1929）の初版復刻版。満直は平の書店で『廃園の喇叭』を見て、心平の実家を訪ねた。

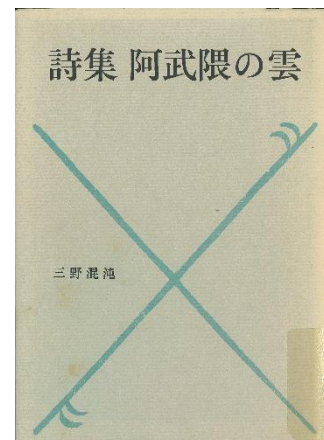
満直が開拓民として北海道に移住後も二人の交流は続き、心平はこの詩集の跋を書いている。

いわき市立草野心平記念文学館関連資料
『猪狩満直』 1998 『猪狩満直展』 2018

『阿武隈の雲』 一詩集一 三野混沌 著 昭森社
1954

同人詩誌「播種者」で混沌と満直、心平は知己であったが、1924 年の平陽裁縫女学校の講演会で混沌は心平に初めて会い、自宅に泊めた。心平はこの詩集の序文を書き、「銅鑼」、「歷程」の詩友として長く交友した。

いわき市立草野心平記念文学館関連資料
『三野混沌』 2000



『渚をたらしした神』 吉野せい 著
中央公論新社 2012

混沌没後の 1972 年、心平は、せいに「あんたは書かねばならない。」と説いた。1975 年、『渚をたらしした神』（弥生書房 1974）は第 6 回大宅壮一ノンフィクション賞と第 15 回田村俊子賞を受賞。当時せいは 76 歳。

いわき市立草野心平記念文学館関連資料
『吉野せい』 1999 『吉野せい展』 2017

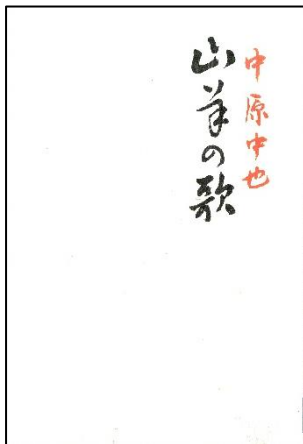
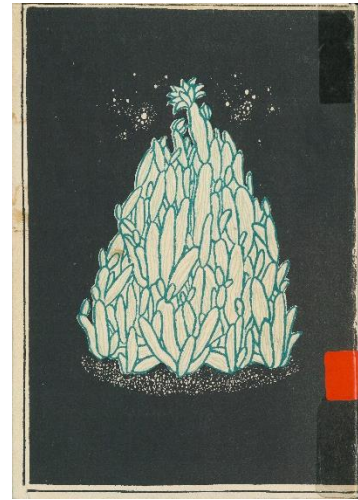
『月に吠える』一詩集― 萩原朔太郎 著
日本近代文学館 編 1969

感情詩社（1917）の復刻版。

1929年、前橋に住んでいた心平は、勤め先の上毛新聞社で帰郷していた朔太郎と出会い、将棋の相手をしている。

いわき市立草野心平記念文学館関連資料

『萩原朔太郎大全 2022』 2022



『山羊の歌』 中原中也 著 日本図書センター 1999

文圃堂書店（1934）の初刊本が底本。心平と中也は、その年に詩の朗読会で出会い、飲み明かした。

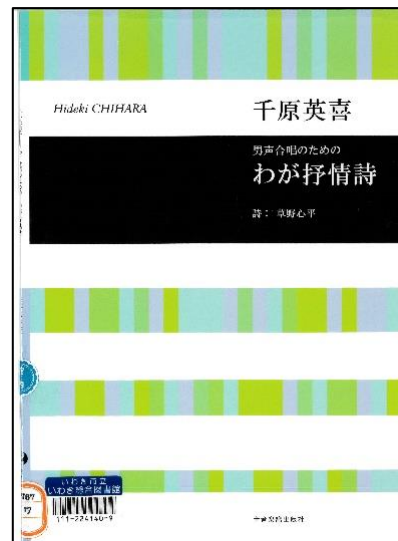
中也は、この本の装丁を依頼するために心平と二人で高村光太郎を訪ねている。

いわき市立草野心平記念文学館関連資料

『中原中也展』 2001

『わが抒情詩』―男性合唱のための―
千原英喜 作曲 草野心平 詩
全音楽譜出版社 2019

『日本沙漠』（1948）に収録されている心平の「わが抒情詩」から抜粋で歌詞を構成し、男声合唱用に作曲した楽譜。



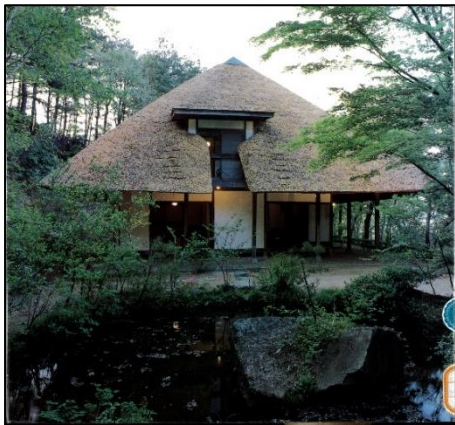
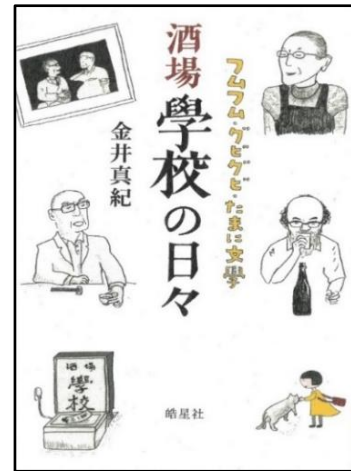
『火の車板前帖』 橋本千代吉 著 文化出版局
1976（現在絶版）

1952年心平は居酒屋「火の車」を開店。心平と同郷の作者は板前として働き、疾風怒濤の々に巻き込まれてゆく。

『酒場學校の日々』ーフムフム・グビグビ・
たまに文學ー 金井真紀 著 皓星社 2015

心平が 1960 年に作った酒場「學校」は 1988
年に閉校したが、1995 年に井上禮子が再開。

心平好きの作者が関わった、2008 年から 2013
年に閉店するまでの日々。



『川内村と心平先生』川内村教育委員会
編 川内村 1993

1953 年、心平は平伏沼のモリアオガエルを
見に川内村を訪ねた。しだいに村人と交流を
深め、1960 年に名誉村民となり、褒賞として
「天山文庫」が建設され、没年まで通った。

『心底惚れた』ー樹木希林の異性懇談ー
樹木希林 著 中央公論新社 2019

月刊誌「婦人公論」での 1976 年の連載対談が
作者の没後に書籍化された。当時 33 歳の作者
は、70 歳を超えた草野心平に対して男の色気
を感じさせると述べている。



『げんげと蛙』草野心平 詩 長野ヒデ子 絵
さわ・たかし 編 銀の鈴社 2015

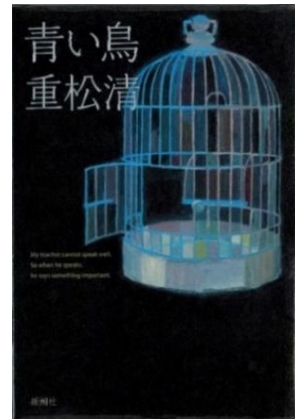
子どもにもわかる言葉で解説した個人詩集のシ
リーズ「ジュニア・ポエム双書」の 1 冊。

巻頭の「春のうた」は、光村図書などの教科書
に掲載され、多くの人に親しまれている。『草野
心平研究序説』の作者が筆名で編集をしている。

『青い鳥』 重松清 著 新潮社 2007

2006-2007 年にかけて「小説新潮」掲載された中学校を舞台にした短編集。

2 作目の「ひむりーる独唱」は、草野心平の詩「白い蛙」の主人公の名前から題名がつけられている。



『お探し物は図書室まで』 青山美智子 著
ポプラ社 2020

5 章からなる短編集。5 章の主人公、権野正雄は 65 歳で製菓会社を定年退職。図書室で囲碁の本を探していると、司書が囲碁の本と一緒に勧めてきたのは、草野心平詩集『げんげと蛙』だった。

いわきとの関わり

「いわき市誕生」

1966 年 10 月 1 日、14 市町村が合併して、「いわき市」が誕生した。

その日の「福島民報」には、いわき市が取り上げられ、カラー特集第 1 面に草野心平の詩「いわき市誕生」が掲載された。



「広報いわき」第 1 号 1966



「ロッサージュ」パッケージ

「ロッサージュ」

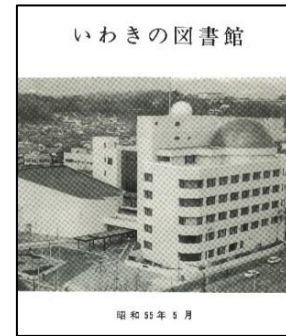
いわき市の製菓会社「みよし」の銘菓「ロッサージュ」(フランス語で石楠花)は、福島県の花「しゃくなげ」をテーマに 1970 年に誕生。そのパッケージには、草野心平の詩が使われている。

「いわき民報」1970 年 9 月 30 日 5 面 広告

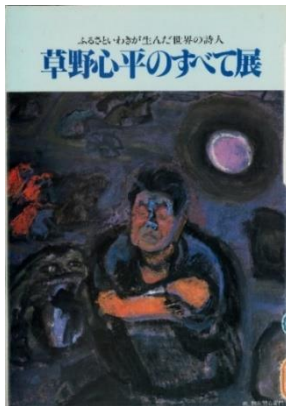
「草野心平資料展」

いわき市立中央図書館は1981年の読書週間(10月27日～11月9日)において、「草野心平資料展」を開催した。当時、図書館は右写真の文化センターの4階と5階部分。

「いわき民報」1981年10月22日10面、10月30日11面



『いわきの図書館』1980



『草野心平のすべて展』

草野心平 80年の歩み
ふるさと いわきが 生んだ世界の詩人 1983

1983年心平80歳の時、いわき市の大黒屋デパートにて「草野心平のすべて展」が、11月17日から11月27日まで開催された。いわき民報は連載記事を掲載。

「いわき民報」1983年11月17日1面

『広報いわき』 昭和59年度 (No.214-225)

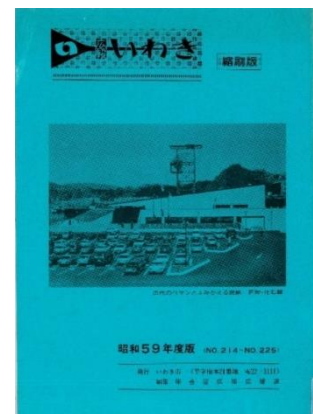
1985

7月4日、ニューしゃくなげ会館で行われた草野心平への名誉市民推戴式が、8月1日 (No.218) の2面に掲載。

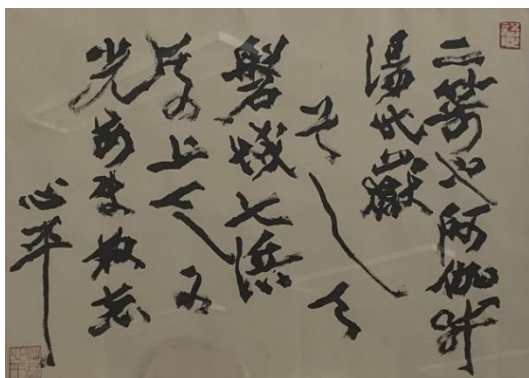
いわき市立草野心平記念文学館関連資料

『草野心平の校歌』2018

「いわき民報」1984年7月5日11面



特別展示



『草野心平の書』

1999年2月17日、いわき市立中央図書館に新栄堂書店いわき駅ビル店長より、心平直筆の書の額が贈呈され、郷土資料コーナーに飾られた。

「二箭や阿伽井 湯乃嶽 そして 磐城七浜
その上天に 光あまね志 心平」

「いわき民報」1999年2月24日2面

草野心平の自筆原稿「温泉の思ひ出」

「温泉」1950年10月号(日本温泉協会)に掲載された原稿。
内容は「国立国会図書館デジタルコレクション」で閲覧可能。

草野心平の
自筆「葉書」

草野心平年譜

西暦	和暦	年齢	草野心平関連	世の中の出来事
1903	明治36	0 歳	5月12日 現在の福島県いわき市小川町上小川に生まれる。 両親兄弟姉妹と離れ、祖父母に育てられる。	12月 ライト兄弟が初飛行に成功
1916	大正5	13 歳	この年、兄・民平、母・トメヨ、姉・綾子が相次いで死去。 4月 福島県立磐城中学校（現在の磐城高等学校）に入学。	12月 夏目漱石 没
1919	大正8	16 歳	11月 磐城中学校を4年2学期で中退。12月 上京。	6月 ヴェルサイユ条約調印
1920	大正9	17 歳	4月 慶應義塾普通部に編入。 9月 慶應義塾普通部を中途退学。	1月 国際連盟成立
1921	大正10	18 歳	9月 中国広東省広州の嶺南大学（現在の中山大学）に入学。	11月 ワシントン会議
1923	大正12	20 歳	徴兵検査のための夏期休暇を利用し帰国。 母校小川小学校の謄写版印刷器を借りて、亡兄・民平との合本詩集『廃園の喇叭』を刊行。	9月 関東大震災
1925	大正14	22 歳	7月 排日英運動の激化で、卒業をまだずにやむなく帰国。 帰省。 10月 上京。	4月 治安維持法公布 5月 普通選挙法公布
1927	昭和2	24 歳	6月 農を志して帰郷。 11月 断念して上京。	3月 昭和金融恐慌はじまる 7月 芥川龍之介 没
1928	昭和3	25 歳	6月 江島やまと結婚。 9月 群馬県前橋市に転居。 11月 活版印刷での第一詩集『第百階級』を刊行。	2月 第1回普通選挙
1930	昭和5	27 歳	11月 郷里の生家に引き上げる。	4月 ロンドン軍縮条約
1931	昭和6	28 歳	2月 上京。 5月 麻布十番の安田銀行前に屋台の焼鳥屋「いわき」を開店。	9月 満州事変勃発
1940	昭和15	37 歳	7月 中華民国中央政府宣伝部顧問として中国に渡る。	9月 日独伊三国同盟締結
1942	昭和17	39 歳	10月 「大東亜文学者大会」のため帰国の際、帰省。	5月 萩原朔太郎 没
1946	昭和21	43 歳	3月13日 上海から帰還船に乗り、31日、生家に着く。 両親弟妹家族総勢19人で同居。 4月1日 「南京からの夢の一つだった」ニッ箭山に登る。	11月 日本国憲法公布
1947	昭和22	44 歳	10月 郷里の小川郷駅前に貸本屋「天山」開店。 「背戸峨廊」を命名。	5月 日本国憲法施行
1948	昭和23	45 歳	5月 詩集『日本沙漠』を刊行。 6月 詩集『牡丹園』を刊行。 郷里で暮らす間、野球チーム「小川オリオンズ」を結成、「小川の歌」を作詞。 8月 上京。 11月 詩集『定本蛙』を刊行。	6月 太宰治 没 8月 大韓民国成立 9月 朝鮮民主主義人民共和国成立
1950	昭和25	47 歳	一連の蛙の詩で第1回読売文学賞（詩歌部門）を受賞。	6月 朝鮮戦争勃発
1952	昭和27	49 歳	3月 文京区に居酒屋「火の車」を開店。	2月 英女王エリザベス2世が即位
1960	昭和35	57 歳	福島県双葉郡川内村の名誉村民に選ばれる。	1月 日米新安全保障条約調印
1963	昭和38	60 歳	10月 東京都東村山市に初めての持ち家を建て、転居。	11月 アメリカ大統領ケネディ暗殺される
1966	昭和41	63 歳	7月 川内村の天山文庫落成。	10月 いわき市誕生
1971	昭和46	68 歳	4月 「草野心平展」（いわき市大黒屋デパート）開催。	6月 沖縄返還協定調印
1975	昭和50	72 歳	日本芸術院会員に推輓される。	5月 文化センターがオープンし、平図書館は中央図書館として移転
1981	昭和56	78 歳	10～11月 「草野心平資料展」（いわき市立中央図書館）開催。	4月 行政改革推進本部発足
1983	昭和58	80 歳	文化功労者に選ばれる。 11月「草野心平のすべて展」（いわき市大黒屋デパート）開催。	9月 大韓航空機撃墜事件
1984	昭和59	81 歳	いわき市名誉市民に選ばれる。	4月 いわき市立美術館が開館
1987	昭和62	84 歳	文化勲章受章。	4月 国鉄が分割・民営化され、JRが発足
1988	昭和63	85 歳	11月12日 急性心不全のため死去。	7月 勿来関文学歴史館が開館
1989	平成元	没後1年	4月 郷里の常慶寺に埋葬される。 5月 「詩人 草野心平とふるさと展」（いわき市文化センター）開催。	4月 消費税の実施
1995	平成7	没後7年	8～9月 「草野心平 -その人と芸術展-」（いわき市立美術館）開催。	1月 阪神淡路大震災
1998	平成10	没後10年	7月19日 小川町に草野心平記念文学館が開館。	1月 星新一 没
2003	平成15	没後15年	4月10日 草野心平生家が一般公開開始。	12月 フセイン前イラク大統領拘束される

＊『草野心平』（いわき市立草野心平記念文学館 1988）等を参照

草野心平著作資料（いわき総合図書館所蔵）

詩集

No	タイトル	出版社	出版年	分類番号
1	富士山	昭森社	1943	DK-911.5-ク
2	定本蛙	大地書房	1948	DK-911.5-クサー
3	日本沙漠	青磁社	1948	DK-911.5-クー
4	草野心平詩集	創元社	1950	DK-911.5-クサー
5	天	新潮社	1951	DK-911.5-クサー
6	亜細亜幻想	創元社	1953	K-911.5-クサー
7	こわれたオルガン	昭森社	1968	DK-911.5-クサー
8	太陽は東からあがる	弥生書房	1970	K-911.5-クサー
9	侏羅紀の果ての昨今	八坂書房	1971	K-911.5-クサー
10	草野心平詩全景	筑摩書房	1973	K-911.5-クサー
11	Zigzag road	文学書林	[1973]	K-911.5-クサー
12	凹凸	筑摩書房	1974	K-911.5-クサー
13	蛙の全体	落合書店	1974	K-911.5-クサー
14	天竺	筑摩書房	1976	K-911.5-クサー
15	植物も動物	筑摩書房	1976	K-911.5-クサー
16	原音	筑摩書房	1977	K-911.5-クサー
17	草野心平詩集	弥生書房	1977	K-911.5-クサー
18	富士の全体	五月書房	1977	K-911.5-クサー
19	乾坤	筑摩書房	1979	K-911.5-クサー
20	第百階級	成瀬書房	1980	K-911.5-クサー
21	雲気	筑摩書房	1980	K-911.5-クサー
22	玄玄	筑摩書房	1981	K-911.5-クサー
23	草野心平詩集	思潮社	1981	K-911.5-クサー
24	幻象	筑摩書房	1982	K-911.5-クサー
25	草野心平	ほるぷ出版	1983	AL-911.5-クサー
26	未来	筑摩書房	1983	K-911.5-クサー
27	玄天	筑摩書房	1984	K-911.5-クサー
28	糸綯之路	思潮社	1985	K-911.5-クサー
29	幻景	筑摩書房	1985	K-911.5-クサー
30	自問他問	筑摩書房	1986	K-911.5-クサー
31	草野心平詩集	岩波書店	1991	AL-911.5-クサー
32	富士山	岩崎美術社	1996	K-911.5-クサー
33	定本蛙	日本図書センター	2000	K-911.5-クサー
34	草野心平詩集	芸林書房	2002	K-911.5-クサー
35	草野心平詩集	角川春樹事務所	2010	B-911.5-クサー

草野心平著作資料(いわき総合図書館所蔵)

評論・評伝

36	宮沢賢治覚書	創元社	1951	DK-910.2-ミ-
37	詩と詩人	和光社	1954	DK-911.5-クサー
38	わが光太郎	二玄社	1969	K-910.2-タカー
39	わが賢治	二玄社	1970	K-910.2-ミヤ-
40	村山槐多	日動出版部	1976	K-289-ムラー
41	宮沢賢治覚書	講談社	1991	AL-910.2-ミヤ-

自伝

42	わが青春の記	オリオン社	1965	KS三猿-911.5-クー
43	凹凸の道	文化出版局	1978	K-911.5-クサー
44	茫々半世紀	新潮社	1983	K-F-クサー
45	作家の自伝 16 草野心平	日本図書センター	1994	AL-911.5-クサー
46	草野心平	日本図書センター	2004	K-911.5-クサー

小説

47	運命の人	新潮社	1955	K-F-クサー
48	七つの愛と死	弥生書房	1957	KS三猿-914.6-クー
49	実説・智恵子抄	弥生書房	1975	K-F-クサー
50	小動物抄	新潮社	1978	K-914.6-クサー

紀行

51	支那点々	三和書房	1939	DK-914.6-クサー
52	点・線・天	ダヴィッド社	1957	DK-292-クー
53	止る歩く	東京美術	1970	K-914.6-クサー

随筆

54	火の車	創元社	1951	K-914.6-クサー
55	火の車随筆	鱒書房	1955	DK-914.6-クー
56	アベベの猫柳	青娥書房	1970	K-914.6-クサー
57	所々方々	弥生書房	1975	K-914.6-クサー
58	雑雑雑雑	番町書房	1976	K-914.6-クサー
59	止まらない時間のなかを	PHP研究所	1976	K-914.6-クサー
60	仮想招宴	ロングセラーズ	1977	K-914.6-クサー
61	酒味酒菜	ゆまにて	1977	K-914.6-クサー
62	私の中の流星群 続	新潮社	1977	K-910.2-クサー
63	私の中の流星群 [正]	新潮社	1977	K-910.2-クサー
64	口福無限	講談社	1981	K-914.6-クサー
65	新編私の中の流星群	筑摩書房	1991	DK-910.2-クー
66	口福無限	講談社	2009	K-914.6-クサー

その他

67	草野心平之字	日貿出版社	1977	K-728-ク-
68	ばあばらぶう	筑摩書房	1977	K-F-クサ-

全集

69	草野心平全集 第1巻	筑摩書房	1978	K-918-クサ-1
70	草野心平全集 第2巻	筑摩書房	1981	K-918-クサ-2
71	草野心平全集 第3巻	筑摩書房	1982	K-918-クサ-3
72	草野心平全集 第4巻	筑摩書房	1983	K-918-クサ-4
73	草野心平全集 第5巻	筑摩書房	1981	K-918-クサ-5
74	草野心平全集 第6巻	筑摩書房	1981	K-918-クサ-6
75	草野心平全集 第7巻	筑摩書房	1982	K-918-クサ-7
76	草野心平全集 第8巻	筑摩書房	1982	K-918-クサ-8
77	草野心平全集 第9巻	筑摩書房	1981	K-918-クサ-9
78	草野心平全集 第10巻	筑摩書房	1982	K-918-クサ-10
79	草野心平全集 第11巻	筑摩書房	1982	K-918-クサ-11
80	草野心平全集 第12巻	筑摩書房	1984	K-918-クサ-12

日記

81	草野心平日記 第1巻	思潮社	2005	K-915.6-クサ-1
82	草野心平日記 第2巻	思潮社	2004	K-915.6-クサ-2
83	草野心平日記 第3巻	思潮社	2004	K-915.6-クサ-3
84	草野心平日記 第4巻	思潮社	2004	K-915.6-クサ-4
85	草野心平日記 第5巻	思潮社	2005	K-915.6-クサ-5
86	草野心平日記 第6巻	思潮社	2005	K-915.6-クサ-6
87	草野心平日記 第7巻	思潮社	2005	K-915.6-クサ-7

子ども向け詩集

88	げんげと蛙	教育出版センター	1984	K-911.5-クサ-
89	少年少女のための日本名詩選集 10 草野心平	あすなろ書房	1986	K-911.5-クサ-
90	蛙のうた	岩崎書店	1997	K-911.5-クサ-
91	ごびらっふの独白	ほるぷ出版	2007	K-911.5-クサ-
92	日本語を味わう名詩入門 12 草野心平	あすなろ書房	2012	K-911.5-クサ-
93	げんげと蛙	銀の鈴社	2015	K-911.5-クサ

＊今回掲載した「いわき民報」の一部は、いわき総合図書館のホームページで見ることができます。

ホームページ右上にある「郷土資料のページ」（お城の櫓の図）→「新聞」→「いわき民報」をクリックください。

「いわき民報」以外のいわきに関する様々な古い新聞も公開されています。地域を調べる際に役立ちますので、ぜひご活用ください。

＊図書館 5 階の商用データベースでは、「図書館向けデジタル化送信サービス」を使って「国立国会図書館デジタルコレクション」の資料を見ることができます。詳細はお問合せください。

企画展「本からたどる草野心平」

令和 5(2023)年 5 月 24 日 発行

■編集・発行 いわき市立いわき総合図書館

■会期 令和 5(2022)年 4 月 28 日(金)－10 月 15 日(日)

■会場 いわき総合図書館 5 階 企画展示コーナー

